アメリカの大学におけるレイバーセンターの機能

―UCLAレイバーセンターの取組みから

石川公彦　一橋大学大学院社会学研究科フェアレイバー研究教育センター

一　はじめに

1　アメリカの大学におけるレイバーセンター

アメリカの大学におけるレイバーセンターは、どのような機能を果たしているのか。本稿では、カリフォルニア大学ロサンゼルス校労働研究教育センター（UCLA Center for Labor Research and Education：以下、UCLAレイバーセンター）の関係者に対するインタビュー調査から、この問題に迫りたい。

アメリカでは、各地の公立大学を中心として、また、いくつかの私立大学においても、労使関係や労働問題などに関する研究教育機関が設置されている。たとえば、公立大学では、カリフォルニア大学、ウィスコンシン大学、ミシガン大学、マサチューセッツ大学、ミネソタ大学など、私立大学ではコーネル大学やハーバード大学などに設置されている。ここではさしあたり、これらの大学にある労働関係の研究教育機関を、レイバーセンターと呼ぶことにする。[1]

レイバーセンターは、一九五〇～六〇年代以降の公民権運動、ウーマンリブ運動、ベトナム反戦運動といった社会運動の高揚を背景として、各地の公立大学を中心に設置されてきた。現在、その数は約五〇に上るといわれている。[2]これらのレイバーセンターのあり方は、多様である。組織形態、財政規模、担い手、活動内容、調査対象、教育対象、連携相手など、レイバーセンターごとに異なる。

また、本稿で分析対象とするUCLAレイバーセンターは、個別のセンターそれ自体で多様性を有している。というのは、UCLAレイバーセンターが位置するロサンゼルスは人種・民族・出身国の構成が多様であり、様々なコミュニティを抱えていることを背景として、関係者の属性が多様であり、また、周辺地域における活発な労働運動や社会運動に応えるべく、活動内容も幅広く多様性に富んでいるからである。

ところで、このような多様性を有するレイバーセンターにおいて、個人の属性や来歴、レイバーセンターにおける立場や役割が異なれば、各人が抱いている問題の領域や次元、熱意や切実さといったものも少しずつ異なってくるのが通例である。そして、それらが異なれば、レイバーセンターの機能についても、各人が各様に、少しずつ異なって見えているはずである。あるいは、ある人には見えているものが、他の人には見えていないこともあるだろう。

そこで、属性や来歴などの異なる複数の関係者に、それぞれの視点からUCLAレイバーセンターの取組みについて話してもらうことで、センターの機能が立体的に浮かび上がってくるのではないか。ある話し手には見えていなかった事柄（あるいは、見ようとしていなかった事柄）が、他の話し手には見えており、その人を通じて、語られることもあるのではないか。

本稿は、このような考えにもとづき、UCLAレイバーセンターの機能を複数の関係者に対する個別のインタビュー調査によって検討する。なお、このような考えと方法によって、大学のレイバーセンターを分析している先行研究は、管見の限りで、存在しない。[3]

2　UCLAレイバーセンターについて

UCLAレイバーセンターとUCバークレー校のレイバーセンターは、一九六四年に同時に

P54-64 一ツ橋-石川.indd 54　2012/04/06 11:46:19

設立された双子のセンターである。両センターは、カリフォルニア労働総同盟の要求によって作られ、現在も人的交流があり、共同でイベントなどを開いている。この両センターを合わせて一つのセンターとみなせば、UCLAレイバーセンターはおそらく全米で最大規模といわれている。

組織の全体的な構成は、最上部にUCLA Institute for Research on Labor and Employment（IRLE：UCLA労働雇用研究所）がある。この研究所の下に、①UCLAレイバーセンター、②UCLA Labor Occupational Safety and Health Program（LOSH：UCLA労働安全衛生プログラム）③Human Resources Round Table for Senior Executives（HARRT：企業トップ人的資源円卓会議）という三つの組織がある。そしてさらに、①UCLAレイバーセンターの下に、UCLAダウンタウン・レイバーセンターが設置されている。[4]

UCLAレイバーセンター所長のKent Wongによれば、レイバーセンターのスタッフは総勢約二〇名おり、そのうちの五～六名は直接の大学教員であり、他の五～六名は労働者教育や地域とのつながりに携わるスタッフで、それ以外の人たちは若者や学生との仕事に携わっているスタッフやインターンである。

センターの運営にあたっては、アドバイザー委員会を設置して、外部からの意見を取り入れている。予算規模は、かつて州全体で六〇〇万ドルあったが、Arnold A. Schwarzenegger前カリフォルニア州知事の予算削減攻撃を受け、二〇〇万ドルまで切り下げられた。UCLAレイバーセンターの年間予算は全体で約一五〇万ドルあり、州政府から五〇万ドル、外部から一〇〇万ドルを集めている（以上、二〇一〇年九月の調査当時）。

活動内容は多様である。ここでは簡単に述べ、くわしくは、以下のインタビュー記録の中に示したい。教育課程に関しては、学部学生向けに副専攻のクラスを開講しているほか、大学院生の調査研究にも協力している。インターンシップ・プログラムも備え、受け入れ先の労働組合、ワーカーセンター、地域住民団体、社会運動団体などと連携を深めている。

また、労働組合員、社会運動に携わる活動家や地域住民も広く受け入れ、各分野に応じたリーダーシップ開発プログラムを提供している。

これらの活動のほか、ワーカーセンターの立ち上げ、低賃金労働者の支援運動、在留資格外移民学生の支援運動、国際的な連携活動、移民労働者家庭における教育環境の支援運動などを展開し、それぞれの局面で、調査活動、政策提言活動、共闘づくり、図書の出版などを行なっている。

二　UCLAレイバーセンターにおけるインタビュー調査

1　インタビュー調査の概要

本稿で取り上げるインタビュー調査は二〇一〇年九月に実施したものである。インタビューの対象は、①Kent Wong（UCLAレイバーセンター、所長）、②Victor Narro（同、プロジェクト・ディレクター）、③Jan Tokumaru（同上）、④Gaspar Rivera-Salgado（同上）、⑤Janna Shadduck-Hernandez（同上）、⑥Lola Smallwood Cuevas（同上）、⑦Cyndi Bendezu（同、プロジェクト・コーディネーター）、Carlos Alfonso Amador（UCLA学生）、Fabiola Inzunza（同上）、⑧Linda Delp（UCLA労働安全衛生プログラム、所長）の一〇名を対象に行なった。また、インタビューはUCLAダウンタウン・レイバーセンター内の部屋を借りて実施した。基本的には一名ずつ個別にインタビューし、前記⑦にあげた三名は集団インタビューを行なった。

インタビュアーは、筆者のほか、一橋大学フェアレイバー研究教育センター高須裕彦、法政大学大原社会研究所鈴木玲、労働運動ボランティア平野太一の計四名である。インタビュー項目はあらかじめ提示せず、自由対話形式で行ない、記録はICレコーダの録音とビデオ撮影によって行なった。

P54-64 一ツ橋-石川.indd 55　2012/04/06 11:46:19

本稿では、聞き取った内容と紙幅を勘案して、前記インタビュー対象者のうち①～④の四名に限定して取り上げることとする。残りの⑤～⑧の分析は他日を期したい。

以下では、インタビュー対象者のそれぞれの視点を活かすために、対象者ごとにまとめてインタビュー記録を記載する。肩書や各種の数値は、とくに断り書きがない限り、インタビュー調査時点のものである。

2　KENT WONG（UCLAレイバーセンター所長）

■Kent Wongの来歴

私はロサンゼルスで生まれ育った中国系三世です。両親の祖父は一〇〇年以上前に、中国からアメリカに来ました。労働運動における最初の経験は、高校生と大学生の時に、全米農業労働者組合で働いたことです。カリフォルニアやその他の所で農業労働者の組織化運動を支援しました。

カリフォルニア大学バークレー校の法学校を卒業してからアジア系法律扶助協会に勤めました。そこではアジアからの労働者の法律問題を支援する仕事に従事しました。その後、SEIU（Service Employees International Union：全米サービス従業員労働組合）の変革期に、ロサンゼルスのSEIU660でスタッフ弁護士になりました。ちょうどそのとき、ジャニターの組織化や在宅介護労働者の組織化が始まっていました。

そのあと、一九九一年にロサンゼルスのUCLAレイバーセンターに移りましたので、二〇一一年でちょうど二〇年になります。また、二〇〇二年に、UCLAダウンタウン・レイバーセンターを作りました。

二〇年前に、このセンターを始めたときは、スタッフが四人しかいませんでしたが、現在は二〇名くらいいますので、ずいぶん大きくなりました。UCLAレイバーセンターは結成以来、大きくなってきましたが、それは同時に、ここロサンゼルスにおける労働運動の発展と並行したものでした。アメリカでもっとも労働運動が活発なこの街に、このレイバーセンターがあるということは非常に幸運なことだと思います。

■UCLAレイバーセンターの役割

UCLAレイバーセンターは労働運動と大学のかけ橋であり、社会正義ための運動の中心となっています。その活動は将来に向けての活動に重点が置かれています。このロサンゼルスには移民労働者が多いので、移民労働者のためのプログラムが中心になっています。ロサンゼルスの移民労働者はこれまでもっともダイナミックな組織化運動の先頭に立ってきました。

また、UCLAレイバーセンターは、若者を労働運動に導きいれる役割を果たしてきました。毎年二〇〇人がインターンシップに参加し、研究・教育・地域とのつながりなど、あらゆる活動分野において学生を巻き込んでいます。学生や若者を参加させていることが、このUCLAレイバーセンターの非常に重要な要素になっています。

労働組合の教材になるような研究や政策作りにも取り組んでいます。公共政策が労働者や労働組合の要求に適合したものになるように、政策作りにも取り組んでいるのです。

UCLAレイバーセンターがあるUCLAの本部キャンパスは、ロサンゼルスの高級住宅街にあります。周囲は億万長者が住んでいるようなところです。このキャンパスは、労働者や低所得層の住民が多く住む場所から遠く、アクセスが不便なため、ロサンゼルスのダウンタウンにUCLAダウンタウン・レイバーセンターを開設しました。このセンターは、労働組合や労働者にとって非常に通いやすいところにあります。周囲はラテン系労働者が住んでいるコミュニティです。

このダウンタウン・レイバーセンターは、地域の労働組合運動ともっと直接的につながるために設立し、重要な拠点になっています。教育・研究・共闘づくり・移民労働者の運動、そういった様々な運動の中心的な拠点になっています。また、様々な新しい創造的試みが行なわれており、大変活発な場所になっています。

（全米各所にある）五〇のレイバーセンターには様々な形があり、何に焦点を置くかはいろんな違いがあります。研究中心のものもあれば、もっと運動中心で、地域に根差したレイバーセ

P54-64 一ツ橋-石川.indd 56　2012/04/06 11:46:19

ンターもあります。あるいは、その両方をともなったセンターもあります。

このＵＣＬＡレイバーセンターは、大学にとっても、労働組合にとっても、良い役割を果たしています。アカデミックな活動にも重点を置いていますが、また同時に、直接労働運動に結び付く活動にも非常に重点を置いています。また、そのことに価値を置いています。

ＵＣＬＡレイバーセンターの運動志向が強いのは、ロサンゼルスの労働運動がダイナミックだからだと思います。私はロサンゼルスの労働運動が非常にダイナミックで、社会運動ユニオニズムを志向していることを大変嬉しく思っています。また、そのなかでＵＣＬＡレイバーセンターが労働運動のための政策作りや、そのための研究によって、労働運動の役に立ってこれたことを非常に嬉しく思っています。

変革には時間がかかります。新しい考え、新しい思考が根付くには、まず、それを保証するための組織ができ、それがモデルとなって、新しい運動を作っていくことが必要になります。ロサンゼルスでも、レイバーセンターを作る動きは一つか二つの先進的な労働組合が試み、それが他の人に対して勇気を与え、広がっていくという形をとりました。

私たちは、活動プログラムを作ったり、新しい考え方を作ったり、そういうことはできます。しかし、労働運動の状況全体、労使の力関係、新自由主義の台頭、階級意識の状況など、このような大きな状況は、私たちだけで変えることはできません。

私たちにできることは、社会正義のための、社会変革のための活動ですし、そのことはだんだんと社会全体に広げていくことができます。

3　VICTOR NARRO（プロジェクト・ディレクター）

■ Victor Narro の来歴

私はペルーで生まれて、一九六七年に四歳のとき、ニューヨークのブルックリンに来ました。当時は六ヵ月で簡単にグリーンカードを入手できました。周囲には、多くのプエルトリコ人がいて、一部に、ドミニカ共和国やその他の中米諸国からきた人たちがいました。

ブルックリンの高校に行き、バージニア州にあるリッチモンド法科大学に進みました。一九八九年に法科大学を卒業した後は、バージニア州で法律扶助の仕事をしていました。それから、一九九二年にロサンゼルスに来て、メキシコ系アメリカ人労働者の法律扶助基金で働き始めました。そこで低賃金の日雇い労働者と付き合うようになりました。その後、ＣＨＩＲＬＡ（Coalition for Humane Immigrant Rights of Los Angeles：ロサンゼルス人道的移民権利連合）に移って、そこで六年間、移民労働者の権利に関する取組みを行ないました。ジャニターを組織している労働組合との共闘や、日雇労働者の組織化の取組みなど、様々な活動をしました。日雇労働者の組織化運動は全国的に広がり、いまはＮＤＬＯＮ（the National Day Laborer Organizing Network：全国日雇労働者組織化ネットワーク）という組織に発展しています。[5]

その後、ＣＨＩＲＬＡを離れて、Garment Worker Center（縫製労働者センター）で、ロサンゼルスにおける縫製労働者の組織化に重点を移しました。[6] また、Sweatshop Watch にも二年ほどいました。縫製労働者は流動が激しいうえに、事業自体が海外に逃げてしまうので、組織化が非常に難しい産業でした。

その運動のなかで知り合った Kent Wong に、「お茶を飲まないか」と誘われて行ったら、ＵＣＬＡレイバーセンターの仕事を申し出てくれました。ちょうどそのとき Kent は、ＵＣＬＡダウンタウン・レイバーセンターを作ろうとしていて、いろんな人が集まれるスペースにしようとしていました。そして、それに関わって以来、二〇〇三年からずっとここに勤めています。

■ＵＣＬＡレイバーセンターにおける仕事

ＵＣＬＡのメインキャンパスで、学部学生のクラスを担当しています。インターンシップで学生たちに様々な組織化の現場を体験させるということもしています。法学部の学生には、しっかりした労働弁護士としての仕事を見つけ、就職を助けるようなこともしています。

また、ＵＣＬＡダウンタウン・レイバーセンターでは、組合の指導部育成プログラムも開い

P54-64 一ツ橋-石川.indd 57　2012/04/06 11:46:19

ています。そのプログラムでは、労働組合から組合員を受け入れて、組合の指導者になるための基礎的な技能を磨く取組みを行なっています。黒人指導者、アジア系の指導者、ヒスパニック系の指導者、性的少数者のための指導者作りなど、それぞれの分野別、目的別に講習を行なっています。

労働組合と地域を結び付ける活動、いわゆる共闘作りも行なっています。たとえば、日雇労働者の問題では、日雇労働者のワーカーセンターとAFL―CIOのワシントンから来た人たちを結び付けるとか、繋がりを作る場としても機能しています。またもう一つの例として、洗車労働者（carwash workers）の取組みがあります。これについても、学生やレイバーセンターがその問題を研究し、その内容をAFL―CIOに届けました。その結果、AFL―CIOのなかから全米鉄鋼労働組合が洗車労働者の組織化に取り組むことになりました。このような形で、私たちUCLAレイバーセンターは、ワーカーセンターと労働組合をつなぐような取組みも行なっています。

ネットワーク作りは、他にも様々なことをやっています。弁護士と労働者を結び付けるようなことも行なっています。法案作りの運動にも関わっています。法案作りに関わっている団体に、（レイバーセンターが行なった）調査の結果を提供するなどしています。とりわけこの二年間は、賃金未払いの問題を調べて報告書を作成しています。

この報告書は完成するまで三年かかっています。この調査結果をもとに、ロサンゼルス市に条例を作らせようとしています。その条例とは賃金未払いを犯罪にするという内容のものです。ロサンゼルス市だけで、毎週二六〇〇万ドルの賃金が支払われず、低賃金労働者から奪われています。これを「賃金泥棒」と呼び、犯罪行為として取り締まるために、いま市議会に働きかけています。この調査の大部分は、私の学生たちによってなされました。

CLEAN Carwash Campaign（クリーン洗車キャンペーン）[7]で活動しているのも、私の授業を履修した学生たちです。彼女たちも研究調査を手始めにして、続けて組織化のほうに関わっています。CLEAN Carwash Campaign にいるスタッフのほとんどは、UCLAの学生たちです。

学校の授業で、移民労働者の問題について学び、そのあとインターンシップで入っていって、それが仕事につながるということが多いです。また、学生のなかで労働運動や社会運動に対する関心が広がってきています。このレイバーセンターが導きの手段になっています。UCLAレイバーセンターにおける様々な授業と取組みを通じて、労働運動の歴史を学び、インターンシップをやることによって近づいていきます。だんだん労働運動との関わりを強めていって、オルグになる人もいます。

また、直接運動に入らなくとも、労働運動を研究するという学生も出てきています。また、政策づくりという形で仕事に携わる人も出てきています。法律を勉強している学生に対しては、労働運動のための弁護士になるようにサポートしています。

私たちのところでは、学生に対して労働運動に関する基礎を十分に与えています。労働組合の方はそういうことを知っているので、私たちのセンターに人材を求めてきます。

労働組合やワーカーセンターに入っていったUCLAの卒業生たちは、そのほとんどが、労働運動のなかにとどまっています。もちろん、なかにはよくない労働組合もあるので、オルグをしっかり育てずに、消耗させられて、辞めてしまうケースもあります。そして民間の一般企業に行ってしまう人もいます。しかし、多くの人が運動にとどまっています。一部には、政治の世界に入って議員になる人もいます。また、研究者の道に入って博士号を取り、学者になって労働運動の周辺にとどまっている人もいます。（UCLAレイバーセンターで活動した学部学生のうち）修士課程に進む人もいますし、博士課程に行く人もいます。いろんな人がいますが、修士を取ってから運動に入ってくる人もいます。全体としては、やはり、運動にかかわっている人が多いと思います。

授業では、できるだけワークショップを行なったり、プレゼンテーションの訓練をします。また、戦略作りをするなど、実践的な講習をし

P54-64 一ツ橋-石川.indd 58 2012/04/06 11:46:20

ています。あとは労働組合のインターンシップで、ＯＪＴで訓練を積ませます。本気になって労働運動に関わりたい、オルグになりたいという学生がいれば、週末三日間の集中講座で、アカデミーと呼んでいるものがあって、そこで労働者に対する接し方や、戸別訪問の仕方など、具体的な手法を学びます。本当に真剣になって、組合のオルグになりたいと思う人たちのための講習があるのです。

4　JAN TOKUMARU（プロジェクト・ディレクター）

■ Jan Tokumaru の来歴

私はカリフォルニア州で生まれた日系三世です。両親ともアメリカ生まれですが、母はアメリカ本土で、父はハワイで生まれました。二人ともプランテーションで働く農業労働者の出身でした。したがって、私は労働組合員の家庭の育ちではありません。私たちの周りにいる多くの活動家は、みなさん労働者の出身であることを誇りにしていますけれど、うちの家族の場合はそうではありませんでした。ただし、父は一九五〇年代に庭職人の協会のメンバーではありました。当時、日系人としては庭職人が一番いい仕事だったわけです。

私はこのレイバーセンターに来て四年になりますが、その前に二〇年間、労働運動の経験があります。私は当初、電話会社に入社し、製図担当の事務職として働いていました。その後、同じ技術部門系の他の部署に移って、さらにその後、営業のほうに回って、大部分を営業職として過ごしました。

私は電話会社で働いているとき、ＣＷＡ（Communications Workers of America：全米通信労働組合）の組合員になりました。組織化委員会に所属して、職場委員をやっていました。労働組合のなかの平等委員会にも参加しました。その委員会は労働組合のなかで、少数民族の人たちが利害を代表できるよう、差別をなくすための委員会でした。アジア太平洋系の労働者の法律上の問題や政治に関わって活動していました。同時に、私はＣＷＡのローカルの副委員長にも選挙で選ばれました。

その後、ロサンゼルスに移り、Miguel Contreras[8]に声を掛けられて、ロサンゼルス郡労働評議会で働きました。そこでは生活賃金運動の担当で、具体的には、生活賃金条例を求めるための住民投票で勝つための運動を担当していました。私はMiguelと親しく活動していましたが、一時期、別の組合の仕事に就いて、離れたことがありました。そのあと再び戻ってきてMiguelを補佐する仕事に就き、彼が亡くなるまでの六年間、ずっと一緒に仕事をしていました。結局、ロサンゼルス郡労働評議会には九年間勤めていました。

■レイバーセンターにおける仕事

私の役職はプロジェクト・ディレクターで、アジア太平洋諸島出身の労働者全体に関わっています。労働組合や地域に対して働きかけ、共闘づくりをするのが主な活動です。ＡＰＡＬＡ（Asian Pacific American Labor Alliance：アジア太平洋系アメリカ人労働連合[9]）の活動が大きな比重を占めています。ＡＰＡＬＡはＵＣＬＡレイバーセンターの賛助団体でもありますし、ロサンゼルス郡労働評議会と共闘を結んでいる相手でもあります。みんな関連していますので、重要な闘いになっています。

ＡＰＡＬＡの活動は非常に範囲が広いので、いくつかの例をお話しします。私たちは、アジア太平洋諸島労働者の権利をめぐる公聴会を全国で展開することになりました。そのため、そこで発言できる優れたリーダーを探しました。また、学生と労働者のつながりも作ります。労働運動には、世代交代が大きな課題になってきているからです。

ＡＰＡＬＡでは、女性労働者の組織化講習会も行なっています。それを通じて女性労働者の組織化の技能を高めるということをやっています。これは大変優れた取組みで、これを通じて、労働者や学生の活動家と、ＡＰＡＬＡとの結び付きを強めることに成功しています。

二〇一一年にはＡＰＡＬＡの全国大会が予定されていますが、この全国大会のなかでＵＣＬＡレイバーセンターとして、組織化のための講習、研修を行なう予定となっています。

ＡＰＡＬＡもＵＣＬＡレイバーセンターも、同盟者をどうやって作るか、共闘をどうやって

P54-64 一ツ橋-石川.indd 59　2012/04/06 11:46:20

広げるかということを非常に重視しています。様々な取組みを通じて、アジア太平洋諸島労働者の指導者をどうやって作っていくかに重点を置いています。

また、移民労働者の権利の問題、学生の問題としてDream Act[10]というものにも関わっています。Dream Act運動を推進するために、学生と地域のつながりをもっと強めることが必要と考えています。これに関しては、学生たちが素晴らしい組織化の成果を上げていますので、大変嬉しく思っています。

Dream Actの運動で、学生たちが示しているエネルギーはすごいので、これを労働組合のほうへ結び付けます。労働組合に出会わなかったような若い人を、労働組合に結び付ける役割を果たしますので、非常に重要だと思います。

それぞれの移民社会を統合して、結集させるというプログラムにも取り組んでいます。UCLAレイバーセンターは、様々な移民社会に対して働きかけ、活動していますので、いろいろな接点があります。そういう人たちを一つに結集させるのです。これについては、毎年取り組んでいるメーデーが焦点となります。メーデーで一緒に集会し、デモをするというだけではなく、メーデーの前後に各地域で行なわれる様々なコミュニティ問題の取組みに参加しています。

さらに、低賃金労働者の問題があります。この課題ではワーカーセンターとつながりを持っています。コリアン系のワーカーセンターであるKIWA（Koreatown Immigrant Workers Alliance：コリアタウン移民労働者連合）とは強いつながりを持っています。同じく、フィリピン系のワーカーセンターであるPWC（Pilipino Workers Center）とも関係を持っていますし、ずっと昔からGarment Worker Centerともつながりを持っています。

これからの課題は、このようなアジア系の移民労働者の権利の問題と、黒人労働者の運動をどのように結び付けるかという問題です。黒人労働者の間でもワーカーセンターを通じて組織化しようという運動が起きています。ですので、そことどうやってつなげていくのかという課題があります。それから、組織化トレーニング研修を行なっています。毎年、あるいは二年ごとに、三日間の指導者養成研修を行なっています。

5　GASPAR RIVERA-SALGADO（プロジェクト・ディレクター）

■Gaspar Rivera-Salgadoの来歴[11]

メキシコで生まれ、カリフォルニア大学サンタクルーズ校で社会学の博士号を取得しました。その後、アメリカ国内のいくつかの大学で職を得てから、オランダのユトレヒト大学で客員教授をしていました。それからアメリカに戻り、UCLAレイバーセンターのプロジェクト・ディレクターになりました。主な専門分野は、労働力の国際移動と人種問題です。

■UCLAレイバーセンターにおける仕事

私の任務は三つあります。第一に、学部学生を対象に労働研究の副専攻を担当しています。「社会正義と労働」と題する一年間のクラスを担当しています。上級生用のクラスとして、ロサンゼルスでの地域や職場での組織化についても担当しています。

ご存じのように、学生は主専攻とは別に、副専攻も取るというカリキュラムになっています。UCLAレイバーセンターは五つの副専攻を持っています。これらの教育課程では、サービス・ラーニングという手法を用いています。社会正義や労働に関して、教室で学ぶだけでなく、実践を通じても学んでいきますので、一年生から四年生までのクラス講義だけでなく、インターンシップなどで労働運動から学ぶというコースを用意しています。

第二に、多国籍社会変革研究所の担当をしています。この研究所はUCLAレイバーセンターが取り組んでいる四つの分野のひとつ、国際連帯の分野に関するものです。あとの分野というのは、一つは低賃金労働者に関する分野です。ここでは黒人労働者や移民労働者の組織と連携して行なっています。もう一つは、移民労働者のアメリカ社会への統合に関する分野です。三つ目は、カリフォルニア建設アカデミーの仕事です。そして、四つ目がこの国際連帯の分野です。中国やベトナムの関係、および、メキシコや中米を中心としたラテンアメリカ諸国との

P54-64 一ツ橋-石川.indd 60　2012/04/06 11:46:20

連帯に関するものです。

第三に、私が担当しているのは、夏季のインターンシップです。これは二つあります。一つは、学生指導者アカデミー（Student Leadership Academy）といわれるもので、組合のオルグになりたがっている学生をインターンシップで教育するプログラムです。学生たちはこのプログラムでオルグの訓練を受けた後、フルタイムのオルグとして正式に労働組合に雇われていきます。

もう一つは、労働夏季調査研究インターンシップ（Labor Summer Research Internship Program）というものです。これはクラスの活動として週四時間、課題については週五〇時間、フィールドワークを行ないます。実際の労働組合やNGOがどのように運営されているか、組織運営の方法を学んでいきます。そして、労働組合のオルグとなるための準備教育をします。以上が私の仕事のあらましです。

また、調査研究に関する私の主な分担は、メキシコからの労働力の移動問題と、アメリカにおける人種間の関係についての研究です。いま、UCLAレイバーセンターの仲間たちと一緒に、アメリカにおける黒人労働者とラテン系労働者の関係についての本を編集しています。

ほかにも、学生を巻き込んで、ジャニターの歴史を記録するプロジェクトを進めています。"Justice for Janitors"（「ジャニターに正義を」キャンペーン）の組織化が始まってから、ちょうど二〇周年になります。そこでこれを記念して、キャンペーンに関わったオルグたち、労働者たち、支援者たちのインタビューを行ない、それを保存して白書の形にまとめ、パンフレットにします。そして、これを教材としてジャニターのさらなる組織化に役立てます。非常に実践的なプロジェクトです。

組合のオルグたちの悩みは、新しく入ってきた組合員たちが、組合を作ることがどんなに大変だったのかを知らないということです。歴史が記憶されていないことが悩みになっています。そこで、彼らの要請に応えるためにジャニターの闘いの資料を集め、それをオンラインでみられるようにします。さらにインタビューを行なってパンフレットにし、出版することをめざしています。

ジャニターの組合会館の地下には膨大な書類があります。そこにすべての資料がありましたので、学生を動員し、歴史学の院生を雇って、その資料を二つの大きな箱にまとめました。いま、その資料を整理しているところです。この資料を整理して分析するという作業は、学生もやりますし、労働者もやります。目下、学生と労働者に資料化するための訓練をしています。ジャニターの組織化の資料をデジタル化して利用できるようにします。また、インタビューによって、ジャニターの組織化のオーラルヒストリーを作ります。これをUCLAレイバーセンターの活動の一つにします。これは大変に刺激的な仕事になると思います。資料を整理して、ウェブページに載せて、インタビューを記録するという三つの分野から成ります。

UCLAレイバーセンターは、他にも多くの人が、いろいろなことを行なっています。このレイバーセンターの魅力というのは、多くの実践家がいるということです。組合弁護士をやったことのある人やオルグなどがたくさんいます。そのうえ、アカデミックな研究者たちもいて、調査や研究もしています。これらが全部一緒になっているのです。ハイブリッドであるということが、このUCLAレイバーセンターの特色だと思います。

UCLAレイバーセンターの上部組織として、UCLA労働雇用研究所があります。ここはChris Tillyが所長をしています。この下に、UCLAレイバーセンターがあり、さらにその下に、UCLAダウンタウン・レイバーセンターがあります。このダウンタウン・レイバーセンターは、大学と地域を結ぶ接点であり、仲立ちの役割を果たしています。様々な実践的な取組みが、このダウンタウン・レイバーセンターを中心にして行なわれています。

外部の観点からすれば、労働組合や労働運動とのつながりを強くしたいということですし、また、地域の方からみれば、地域の人たちをもっと大学に入ってこられるようにしたいということで、ここで様々な会議や研修を行なっています。

P54-64 一ツ橋-石川.indd 61 2012/04/06 11:46:20

三　結びにかえて

1　「つなげる」機能(1)

インタビューの記録から共通して立体的に浮かび上がってくるＵＣＬＡレイバーセンターの機能のうち、もっとも重要と考えられる機能の一つは、「つなげる」という機能である。本稿で取り上げたインタビュー対象者のすべてが、表現は様々でも、「つなげる」機能に言及していることから、それは容易に理解できるだろう。そこでここでは、ＵＣＬＡレイバーセンターの「つなげる」機能に着目して、分析と考察を加え、結びにかえたい。

第一に、インタビュー記録からも明らかなように、ＵＣＬＡレイバーセンターでは、教育の局面においても、実践的な運動の局面においても、また、調査研究の局面においても、特定の範囲に閉じることなく、多様な団体や個人間をつなげながら物事を進めていることがわかった。

第二に、その「つなげる」行為は、単に、「Ａさんと Ｂさん」、「Ａさんと団体Ｘ」、「団体Ｘと団体Ｙ」などのように、様々なレベルの主体間をつなげることにとどまっていない。教育の局面、運動の局面、調査研究の局面といった、本来的には行動目的を異にする局面も、意識的に重ねることで、つなげていることがわかる。たとえば、教育課程では、参加型のワークショップやインターンシップ・プログラムなどを通じて、運動現場と学生をつないでいる。Victor Narro がインタビューで語っている CLEAN Carwash Campaign における学生たちの関わらせ方はその典型である。

調査研究の局面についても、調査に学生を参加させることで、調査研究と教育局面とを重ねてつなげるとともに、その調査結果を運動局面に活用することで、三つの局面をつなげている。これについては、Victor Narro のインタビューにある賃金泥棒の条例規制化運動のための調査や、Gaspar Rivera-Salgado のジャニターの歴史記録プロジェクトの話などからも伺える。

第三に、つなぎよくするための工夫として、つなぎたい・つながりたい人たちが多くいるダウンタウン地区に、ダウンタウン・レイバーセンターを開設したことは非常に重要である。このことによって、つなげる機能が、物理的な空間をともなって実現することになったからである。そしてまた、つながりの場を物理的空間として確保したことによって、ＵＣＬＡレイバーセンターは、様々な運動を生み出すインキュベーターの機能を強め、かつ、運動の実際的な活動拠点ともなりえている。

第四に、主体間を空間上で横につないでいるだけではなく、時系列に沿って、縦につないでいることも指摘しておきたい。すなわち、世代交代という課題を背景として、若年層を年配層につなげるということも、意識的に進めていることが伺えた。

以上の機能をまとめれば、次頁図中の上枠内に示すことができる。この四つの「つなげる」機能から派生して、さらに細分化した機能を指摘することも可能であろう。

2　「つなげる」機能(2)

ところで、このように多方面に分厚くつなげていくことで、ＵＣＬＡレイバーセンターは、何を実現しようとしているのであろうか。

一つには、それが直接的に厚みのある運動を作り出すことと不可分の関係にあるからに相違ない。また同時に、ＵＣＬＡレイバーセンターが、民衆教育（popular education）の手法にもとづいて教育していることとも深く関係しているだろう。[12]

その手法は、学ぶべきものの強制ではなく、学ぶべきものを、参加者自身の判断に委ねながら、教育していく。教育する側は、参加者が主体的に学ぶべきものを学べる「状況」を提供する。学ぶべきものが現実問題として目の前に明瞭に示されている「状況」のなかに、学び手を送り込む。学び手はその「状況」のなかで、直接的な体験を通じて問題点を肌で感じ、学ぶべきものを理解し、学び、問題解決の実践行動へと自発的に展開していく。

このような、一連の学びの契機を誘発する「状況」を用意するためにも、ＵＣＬＡレイバーセンターは、大学の外との多様なつながり

P54-64 一ツ橋-石川.indd 62　2012/04/06 11:46:21

が必要とされている。ここでは、UCLAレイバーセンターの機能として、「問題の場」と「学びの場」をつなげる機能、さらに、「学びの場」から「実践の場」へとつなげる機能が指摘されるべきだろう[13]（図中の下枠内）。

ここで、「問題の場」というときの「問題」の中身は、UCLAレイバーセンターの場合、雇用・労働・職場などの問題、および、それと密接な関係にある社会的な問題も含めている。そして、この二つの領域の問題が重なり、つなぎ合わさったところに社会運動ユニオニズムの問題が現れてくるが、この問題に関しては、本稿で扱われなかったインタビュー調査記録（前記⑤～⑧）の分析とともに、他日に公刊の機会を待ちたい。

図　UCLA レイバーセンターの「つなげる」機能

「つなげる」機能（1）

① 主体間を「つなげる」
② 各局面を跨いで「つなげる」
③ 物理的空間として有する「つなげる」
④ 世代間を「つなげる」

「つなげる」機能（2）

① 「問題の場」と「学びの場」を、「つなげる」
② 「学びの場」と「実践の場」を、「つなげる」

※本研究は、科学研究費補助金（基盤研究C・二二五三〇五七六）の助成を受けて行なった。

【引用文献】

・K.ウォン［二〇〇四］「大学と労働組合、NPOとのコラボレーションはどのように可能か―アメリカにおける現状と課題から探る―ケント・ウォン氏講演記録」法政大学大原社会問題研究所ワーキング・ペーパー一八号（講演部分はK.ウォン［二〇〇五b］に収録。なお、本ワーキング・ペーパーは、書籍に未収録の質疑応答箇所も記載）。
・K.ウォン［二〇〇五a］「アメリカの移民労働者の組織化の現状と問題点」『社会運動ユニオニズム―アメリカの新しい労働運動』第九章所収、緑風出版。
・K.ウォン［二〇〇五b］「大学と労働組合、NPOとのコラボレーションはどのように可能か―アメリカにおける現状と課題から探る」『社会運動ユニオニズム―アメリカの新しい労働運動』第一二章所収、緑風出版。
・鈴木玲、青野恵美子、山崎精一、中島醸［二〇〇九］「大学と労働運動、社会運動をつなぐ橋―アメリカの大学のレイバーセンターとは何か（下）」労働法律旬報一六九二号四二頁。
・高須裕彦［二〇〇五a］「アメリカの社会運動ユニオニズム―ロサンゼルスの新しい労働運動に見る」大原社会問題研究所雑誌五六二号二九頁。
・高須裕彦［二〇〇五b］「ロサンゼルスの新しい労働運動とその社会的基盤」『社会運動ユニオニズム―アメリカの新しい労働運動』第二一章所収、緑風出版。
・高須裕彦・小畑精武［二〇〇九］「大学と労働運動、社会運動をつなぐ橋―アメリカの大学のレイバーセンターとは何か（上）」労働法律旬報一六九〇号三四頁。
・M.ノイズ［二〇〇九］「労働者教育の問題点―ニューヨーク市立大学に拠点をおく複数の労働者教育センターにおける教育実践から」労働法律旬報一六九四号四五頁。
・Byrd, B. and Nissen, B. [2003] Report on the State of Labor Education in the United States, Center for Labor Research and Education Institute of Industrial Relations, University of California.
・Delp, L., Outman-Kramer, M., Schurman, S. J. and Wong, K., ed. [2002] Teaching for Change: Popular Education and the Labor Movement, UCLA Center for Labor Research and Education.
・Dziembowska, M. [2010] "NDLON and the History of Day Labor Organizing in Los Angeles" in Milkman,R. ,Bloom, J. and Narro, V, ed., Working for Justice: The L.A. Model of Organizing and Advocacy, Cornell University

P54-64 一ツ橋-石川.indd 63 2012/04/06 11:46:21

Press.
・Archer, N. A., Gonzalez, A. L., Lee, K., Gandhi, S. and Herrera, D. [2010] "The Garment Worker Center and the 'Forever 21' Campaign" in Milkman,R. Bloom, J. and Narro, V. ed., Working for Justice: The L.A. Model of Organizing and Advocacy, Cornell University Press.
・Wong, K. and Narro, V. [2007] "Educating Immigrant Workers for Action" in Labor Studies Journal, Vol.32.（中島醸訳「米国における移民運動の大高揚（下）―行動に向けて移民労働者を教育する」労働法律旬報一六六三＋六四号〈二〇〇八年〉八四頁）。

（1）高須によれば、全米労働教育協会の加入要件に基づいて「労使双方に対して中立的な立場を取る労働研究・教育機関はレイバーセンターではない」とし、大学におけるレイバーセンターを「大学にベースを置き、労働運動と連携し、支援する立場から労働調査研究や教育を行う機関やプログラム」であると定義している（高須［二〇〇九］三四～三五頁）。

（2）Kent Wongからの聞き取り［二〇一〇年九月］、および、K.ウォン［二〇〇五b］二〇八～二〇九頁より。

（3）アメリカの大学におけるレイバーセンターの先行研究には、たとえば、K.ウォン［二〇〇四］［二〇〇五b］、高須［二〇〇五a］［二〇〇五b］、高須・小畑［二〇〇九］、鈴木等［二〇〇九］、M.ノイズ［二〇〇九］、などがある。また、全米のレイバーセンターについて、数量的に行なった調査として、Byrd, B. and Nissen, B. [2003]がある。

（4）UCLAダウンタウン・レイバーセンターの設立については、Wong, K. et al [2007] p.p.114-5を参照されたい。

（5）NDLONの事務所は、現在、UCLAダウンタウン・レイバーセンターの地階に設置されている。NDLONの運動については、CHIRLAなどの活動の経緯とともにDziembowska, M. [2010] にくわしい。

（6）Sweatshop Watchとは、カリフォルニア州における縫製労働者の賃上げや、働きがいのある人間らしい仕事の実現に取り組むNGOの団体名のこと。Garment Worker Centerの運動についてはArcher, N.A. et al [2010] を参照されたい。

（7）CLEAN Carwash Campaignは、洗車場において劣悪な条件下で働く移民労働者の組織化キャンペーンである。地域住民団体、ワーカーセンター、労働組合等が加盟し、ワーカーセンターと同様の機能を有している。洗車労働者の組織化には、特に全米鉄鋼労働組合が大きな支援を行なっている。

（8）Miguel Contrerasは、一九九六年から二〇〇五年までロサンゼルス郡労働評議会の財務書記長を務め、二〇〇五年に他界した。もっとも尊敬を集めるラテン系の労働運動指導者の一人であり、草の根の運動に依拠した革新的な組織づくりを推進していた。

（9）APALAは一九九二年に結成された団体で、UCLAレイバーセンター所長Kent Wongが一九九二～九七年まで会長を務めた。

（10）Dream Actは、在留資格のない資格外移民学生に対して、一定の要件を満たせば、永久在留権と市民権を与えるという法案である。二〇〇一年に提出された。

（11）Gaspar Rivera-Salgadoの来歴はインタビュー時点において、ほとんど聞くことができなかったため、ここに記した内容は、UCLAレイバーセンターHPのstaff biographiesを参考にした（http://www.labor.ucla.edu/contact/expertbios.htmlアクセス二〇一二年三月二五日）。

（12）K.ウォン［二〇〇五a］一五六頁。また、労働教育、労働者教育の場における民衆教育については、Delp, L. et al [2002] が詳しい。

（13）このような意味でも、UCLAレイバーセンターが、高級住宅街に囲まれたキャンパスにとどまっていることは、センターの趣旨に反していたといえる。UCLAダウンタウン・レイバーセンターがダウンタウン地区に設立されたのは、財政的問題をクリアできれば、必然のことであった。

（いしかわ　きみひこ）

P54-64 一ツ橋-石川.indd 64　2012/04/06 11:46:21